



ELRANTE



エルランティの光セミナー

あなたは何者ですか？

あなたは、なぜ、生まれてきたのですか？

死後の世界はあると思いますか？

神は存在するでしょうか？

心の学びと田池留吉先生について

この「心の学び」を提唱された田池留吉先生について紹介します。

まず「先生」という呼び方は、かつて大阪で公立高校の校長先生をしておられたため、教職を退かれた今も、いつしかこの呼び名が定着してしまいました。決して特別視したり 教祖扱いして そんな呼びかたをしているわけではありません。

戦争中、「死とは何か」「生とは何か」という問題に直面した田池先生は、終戦後の昭和23年、数学の教師となりました。授業時間のほとんどは「心」や「愛」の話であったと言います。その頃、先生の教えを受けた人の話によると 教室にはいつも「自然に従い真実を愛し、純粋なる魂の感動するまに、自己と自己以外のすべての人々に愛をつくさん」の文字が掲げられてあったそうです。万事が順調に進む中、あるとき、先生は、心の中から一つの言葉を聞きました。「あなたが語る言葉は天使の言葉だが、あなたの心は真っ暗ではないのですか」と……。

このとき田池先生は自分が何もわかっていなかったことに気付きました。「愛」あふれる自分だと思っていたのが、なんにもない、空っぽの自分だったということを知られたのです。では本当の愛とは？ 自分の生まれてきた目的とは？ そんな暗中模索の中、行き着いた結論が「母親の反省」でした。先生は、母親に対して出てきた思いを見つめていく中で、自分が一番バカにしてきた母親が、自分に「愛」ということを教えてくれていたことに気付いたのです。

何か形が間違っていたというのではなく、自分の心が、神に向かず 形の世界、肉の世界に向いていたことが間違いだったことに気付きました。それからというもの、「心の世界こそがすべて」、「自分の心の中にこそ神がいる」「私たちはみんな神の子」、そして そのことは「母親の反省」を通して「心で体験できる」のだということをも多くの方に話してられました。

たくさんの方が、話を聞きに来られました。子供のことで悩んでおられる方 病気のことで悩んでおられる方 自分という存在について考えておられる方、人の身体を扱う治療士の方 人の心を扱う心理療法士の方 大学の先生もおられればサラリーマンもいる 主婦もいる……。そんな人たちが、毎日曜日になると、場所を提供してくれる人の家に集まり 先生の話に耳を傾けたのです。それがこの学びの始まりでした。

やがて、話を聞く人の中から、意識の世界とコンタクトできる人が現れるようになりました。最初、その人たちのことを霊道者と呼んでおりましたが、今では意識の世界にチャンネルを合わせることでできる人「チャネラー」と呼んでおります。その人たちが「エルランティ」という意識からの通信を受け出したのです。そしてチャネリングを通して「エルランティ」とは、外にあるのではなく自分の中にある「本当の自分」だということもハッキリしてきました。

こうして先生は、自分の本当の仕事に気付かれ、心の中の思いに従い、高校の校長職を辞められ、「心の世界こそがすべて」「私たちは、みんな神の子だ」ということを伝えられるようになったのです。

心を見るときはどういうことでしょうか？

普段、私たちは、見たもの、聞いたもの……いわゆる五感で感じた外の情報をもとに生きています。それをちょっとストップして「自分の心の中を見よう」というのがこの学びです。

外を見ているかぎり、どうしても人は、自分以外の何かに原因を求めがちです。たとえば「社会が悪い」「教育が悪い」「夫が悪い」「妻が悪い」「子供が悪い」「姑しゅうとめが悪い」……「あの人が変われば」……となるわけですが、まわりに原因を求め、それを変えようとしても何も変わらないのが現実です。

というのも、外に見えてくる歪み、ひずみは、実は自分の中にあるものだからです。そこで他人や社会を変えようとするのではなく、自分を変えていこう、自分の生まれてきた本当の目的に気付いていこうというのが、この学びの目指すところです。

この学びの3つの柱

そのために、①知識 ②反省 ③瞑想

という3つの仕組みが、この学びでは提唱されています。

知識

この学びを自分の長年培ってきた常識や知識、経験でわかろうとすると混乱が起きます。例えば「人間は肉体ではなく意識である」とか、「神は外に拝むものでなく、自分の内なる意識である」とか、「苦しみは神の愛である」等々、知識の面から見ても、世間の常識とは全く違ったところがほとんどです。まずは今まで培ってきた知識や経験を忘れて、白紙の状態で、この学びを理解していただければと思います。

反省

ここで言う反省とは、世間で言うような「反省」ではなく、「自分の心を見る」ということです。仕事の中で、生活の中で、心は常に動いています。その動く心を見つめることを反省と言っています。この反省には、今、申し上げた「日々の心を見つめる反省」のほか、もっと根元的な「母親の反省」と「他力の反省」があります。

瞑想

「母を思う、神を思う」瞑想（心を「本当の神に合わせる」瞑想）と、「自分の闇をさらけ出す」瞑想とがあります。自分の心が、神とぴったり合ったなら、それがすべてです。その時は、喜びと感謝しかありません。言い換えれば、神の心から外れた分だけ、苦しみが生じるといことです。その苦しみを瞑想の中で解放し、自分がどれほどの闇を抱えてきたかを実感していくことを「闇出し瞑想」と呼んでいます。

あなたは何者ですか？

あなたは何者ですかと問われたら、きっとあなたは、今の目に見えているご自身のことを話されるでしょうね。しかし、それは本当のあなたではありません。あなたの心の中にある大きな愛の心、限りなく広がる喜びの心を知ったとき、それが本当の自分だと感じられたとき、今、ご自分だと思っているあなたは、色褪せてくるでしょう。

4つの 問いかけ

神は存在するのでしょうか？

存在すると言われるなら、
どんな神を思われるのでしょうか？

神とは、あなた自身に他なりません。肉体ではなく、あなたの心の中にある本当の輝き、それが神です。しかし、人間は、肉体や目に見える世界がすべてだと思い、外に神を求めてゆくようになりました。

そして多くの間違った神をつくり出してきました。今、本当の自分、本当の神に気付く時が来ているのです。

平成6年国民の意識に関する 世論調査結果

生きがいとは？

仕事と答えた人	23.4%
勉強・教養と答えた人	3.8%
いい職業に就くと答えた人	24.4%
社会に役立つことと答えた人	4.8%
家庭・子供と答えた人	38.7%
信仰・信条と答えた人	3.4%
わからないと答えた人	4.8%
その他	4.8%

死後の世界は あると思いますか？

肉体はなくなっても、心、つまり意識はなくなりません。今の心の状態は、死後もなくなることなく存在し続けるのです。今、苦しんでいる方は、その苦しみそのまま、人を責めている人は、責める心のままに生き続けるのです。その残された苦しい思いを供養するために、私たちは肉体を持って生まれてくるのです。

あなたは、なぜ、 生まれてきたのですか？

あなたは何のために生まれてきたのかと考えたことはありませんか。探しても探しても見つからない答えに、あきらめに似た思いを持ったことはありませんか。でも、真実はあります。それはあなたの心の中にある愛に出会うためなのです。あなたの心の中の本当の神に出会うために、あなたは肉体を持ったのです。

—— 5・3・2とは何か ——

どのように学びを進めていくのか？

「5つの励行、3つの実践、2つの確認」

5つの励行

(1) 早く寝る

(2) 丹田呼吸をする

朝、目覚めたら、まず思いっきり自分の中の空気を、下腹部がペチャンコになるぐらい吐き出してください。吐ききったら、今度は新鮮な空気を思いっきり吸い込みましょう。空に、太陽に、空気に、「おはよう」というような気持ちでおこなってください。それを5回ぐらい行い、たとえ少しでも軽く眼を瞑り、「母を思い、神を思う」時間を持ってください。あたたかな温もりに包まれている自分に心を向けてください。

(3) 腹6分目～7分目、食べ過ぎない

(4) 頭寒足熱

- a 半身浴…お湯に浸かるのはへその上ぐらい。胸まで浸からない。
ぬるい目のお湯。30分位（二の腕に汗が出るくらい）入浴。
（入浴後、すぐに靴下を履くようにし、足を冷やさないようにする。）
- b 靴下の重ねばき…心臓と足の温度差を縮める。
冷えは万病の元。冷え取りと排毒のため、絹の靴下や木綿の靴下を着用
（肌に着けるものは、できるだけ化繊は着用しない。）

(1)(2)(3)(4) については、肉体を健康に維持するために励行する事項です。というのも、健康でなければ、心を見ることもなかなか難しいからです。でも、そんな時間の中でも、次の5番目に掲げる「神に心を向ける」時間、「母を思い、神を思う」時間を持つようにしてください。

(5) 神、エルランティに心を向ける。

神、エルランティとは自分の本質であり、すべての根元的な意識です。心を向ける時、ただ「神」と思うだけでは、すがったり頼ったりの「他力の神」に心が向きかねません。それが私たちが培ってきた心の癖なのですから。

そこで、まずは知識で、「神、エルランティは自分の本質だ」と理解した上で、一日の中で、たとえ少しの時間でも、神、エルランティに心を向ける時間を持つようにしてください。その中で、自分の中に存在する、あたたかな温もりにきっと出会えると思います。

他力信仰の反省

他力信仰は、肉体を自分だと思うところから始まります。肉体を満足させるため、肉的な不安を解消するため、私たちは神ならぬ神をつくりだし、手を合わせ、折り、拝んできました。その心が他力です。

他力の反省とは、どこそこの宗教団体に属したから悪いとか、誰その本を読んだから悪いというような、そんな形ではなく、そのときの自分の心がどうであるかを見ていくことです。

母親の反省

反省の中で、自分にもっとも身近な人間、私たちを産んでくれた母親に対し、生まれてから今まで、どんな思いを出していたかを見ていくことを母親の反省と言っています。この学びの中心であり、自分を見つめる上で、最も根本的な作業と言えるでしょう。母親が何をして いたかではなく、お母さんに対し、自分がどん思いを出していたか、それを見ていくことがポイントです。身近なことから思い出していただく。

3つの 実践

Look!

日々の反省

仕事の中で、生活の中で、心は止どまることなく動いています。今、どんな思いを出しているのか。なぜ、そんな思いが出てくるのか。その心は、一体、どこから来るのか。「相手が悪い」「社会が悪い」「誰それが悪い」と、誰かのせいにして自分をかばうのではなく、そのときどきに動く自分の心を見つめ、その中に原因を探っていく作業を日々の反省と言っています。

(1) 母親の反省をする

ノートをひろげ「お母さんの反省」をしてみてください。

自分にもっとも身近な人間、私たちを産んでくれたお母さんに対し、生まれてから今までどんな思いを出していたか。思い出せるところからノートに書いていきます。お母さんが何をしていたかではなく、お母さんに対し自分がどんな思いを出していたか、それを見ていくことがポイントです。どんなことでも結構です。何も大げさなことを考えず、身近なことから思い出していきましょう。

私たちの、もともとの姿は「神の子」の魂です。母親の子宮の中に漂っている胎児、その心こそが、私たちの本来の心ではないでしょうか。お母さんの温もりの中に包まれ、何も案ずることなく、ただゆだねきった姿、それは、神の愛の中にすべてをゆだねきっている私たち自身です。

ところが、いったん、肉体として生まれ出ると、成長と共にたくさんの汚れをつけ始めます。競争心、嫉妬心、支配欲、金銭欲、名誉欲……みんな、肉体が自分だと思うところからつけた汚れです。

私たちは決して、今の人生だけを生きているのではありません。何千、何万という過去世を引きずって生きています。肉体が自分だと思い、その肉体を満足させるため、名誉を求め、権力を求め、神に帰るべく用意された人生を、かえって神からどんどんと遠ざかってきたのです。

神の魂から出た人類が、心を汚していく過程、その過程こそ、私たちが母親の体内から生まれ、成長していく姿そのものではないでしょうか。私たちは、過去世から繰り返してきた誤りを修正するため、この人生を与えられています。過去世など分からなくても、今、自分の心の中を見れば、神から離れていった、永い、永い間違った心の歴史があります。

共に心を見ていきましょう。お母さんに対して出していた思いをたどりながら、自分の心の間違いに気づき、共に、神の下へ、お母さんの子宮の中へ戻っていきましょう……



◆ つきの要領で、お母さんの反省をしていきましょう。

- a お母さんにしてもらったこと
- b お母さんを困らせたり、泣かせたり、馬鹿にしたり、……
責め裁いたりしたこと

まず、a bについて、つきの順序で思い出してみる。

- ① 就学前
- ② 小学校低学年
- ③ 小学校高学年
- ④ 中学校

その時に、お母さんの姿、言葉、行為をどう思ったか、
使った自分の心を思い出していく。

◆ お母さんに、肉体をこの世に出していただいたことをどの
ように思っているか、このように思ってきたか、ノートに
書き綴ってみる。

(出生前後の家庭、社会の事情を考慮に入れながら書いていく。)

◆ 今日までに、お母さんにしてあげたことを、
全部、ノートに書き上げる。

◆ 題「我が母を語る」を原稿用紙に書く。

◆ 瞑想「母を思う」をやる。



(2) 他力の反省をする

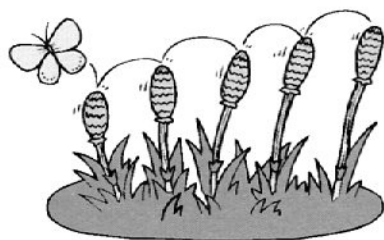
私たち人間の最大の誤りは、肉体を自分だと思ったことです。他力信仰も、肉体を自分だと思うところから始まります。肉体を満足させるため、肉的な不安を解消するため、私たちは神ならぬ神をつくりだし、手を合わせ、祈り、拝んできました。その心が他力です。

どうぞ、手を合わせるときの自分の心を見てください。宗教に救いを求めようとする、その心を見てください。「他力の反省」とは、どこかの宗教団体に属したから悪いとか、誰かの本を読んだから悪いというような、そんな形ではなく、そのときの自分の心がどうであるかを見ていくことです。

なぜ、手を合わせるのか。なぜ、その会に入会するのか。そのときの心を見、その心がどこから来るのかを探っていくのが「他力の反省」と言えるでしょう。

他力の反省ができていなければ、いくら「本当の神」に心を向けようとしても、肉的な満足を与える「間違った神」にしか、私たちの心は向いていかないのです。ずっと、私たちの心は、そちらのほうしか向いてこなかったのですから……。

(次頁に「他力の反省」を行うについての参考事項を掲げてあります。何度も繰り返しているように、相手を見るのではなく、その教団や指導者に使った自分の心を見ることがポイントです。相手はあくまで自分の心を見るための鏡であり、教材としてとらえてください。)



(他力信仰の反省 参考)

a あなたが入信したことのある教団を思い出してください。

- 1 阿含宗 2 エホバの証人 3 円応教 4 大本教 5 オウム真理教 6 黒住教
7 幸福の科学 8 真如苑 9 慈光院密教 10 神慈秀明会 11 G L A
12 崇教真光 13 生長の家教団 14 世界救世教 15 創価学会 16 統一教会
17 天理教 18 誠成公倫会 19 実践倫理宏正会 20 金光教 21 P L 教団
22 白光真宏会 23 八尊光輪会 24 立正佼成会 25 霊友会 26 モラロジー
27 偕和会 28 ひとのみち
29 () 不動尊 30 () 稲荷 31 () 観音
32 その他 ()

(※各教団の名前を掲げてありますが、これら教団や宗教団体がいいとか悪いという意味ではなく、あくまでも、ご本人がその団体に属していた時の思い、また指導者の方にとれな思いを使っていたかを思い出していただくために、一例として掲げてあります。)

b 入信した動機は何ですか。

- 1 先祖供養 2 因縁解消 3 病氣平癒 4 商売繁盛 5 超能力開発 6 立身出世
7 交通安全 8 結婚・夫婦の調和 9 悟道 10 合格・学業成就
11 過去世、守護霊を知りたい

(3)日々の反省をする

夫(妻)、姑(嫁)、職場の仲間、友達、……に対して、どんな心を使ってきたか。どんな心を使っているか。一瞬一瞬に動く心を見ていってください。



2つの確認

心は明るいが、暗いが。
神、エルランティを信じているが。

—— 4と1について ——

今、5・3・2について触れました。

「4と1はないのか？」ということになりますが、

4は4つの知識を指します。

4頁に戻っていただくと、4つの問いかけという項目がありますが、

この項目が、おおむね4つの知識ということになります。

そして、残された1つの項目で

「私たちは神の子です」

という認識に至るのです。



5 4 3 2 1 の整理

5つの励行

1. 早く寝る。
2. 丹田呼吸をする。
3. 腹6～7分、食べ過ぎない。
4. 頭寒足熱。(半身浴、靴下の重ね履き等)
5. 瞑想、神・エルランティ田池に心を合わせる。

3つの実践

1. 母親の反省をする。
 2. 他力信仰の反省をする。
 3. 日々の反省をする。
- 夫(妻)、姑(嫁)、職場の仲間、友達、……に対して、
どんな心を使ってきたか。どんな心を使っているか。

2つの確認

1. 心は明るいか、暗いか。
2. 神・エルランティを信じているか。

4つの知識

1. 神は存在しますか？ _____
2. あなたは何者か？ _____
3. あなたはなぜ生まれてきたのか？ _____
4. 死の問題 なぜ生まれ変わるのか？ _____

そして、1とは、「あなたは神の子です」ということです。
みんなが神です。誰が偉いとか、誰が卑しいとか、誰が一番とかいう
ことでなく、みんなが一番、みんなが、神、エルランティということ
です。

神・神の子

神とは、頼ったり、すがったりするものでなく、人間の本質そのものが「神」なのです。それを人類は、肉を維持するための不安や恐怖から、**神**ならぬ神をつくりだし、祈り、拝むようになってしまいました。ここでいう**神**とは、そんな神社 仏閣、教会に祭られている神を指すのではなく、私たちの心の中にある本質を指して言っています。人類が外に神を求めるようになったときから、墮落が始まり、人は、**神**から遠く遠く離れてしまいました。

そんな人類が、自分の本質が**神**だと気づき、**神**の下に帰ろうとしたときから、私たちは、自分が「**神の子**」であることを自覚するのです。何もイエス一人が神の子なのではありません。まだ、みんな、そのことに気付いていないだけなのです。みんな、**神の子**なのです。

(※神とエルランティ＝神と言おうと エルランティと言おうと同じことです。そこに区別があるわけではありません。要は私たちの本質を指して言っているにすぎません。)

一 人の例外もなく、すべての人の本質は神です。その

本質の部分に、私たちは自分が肉体で

あるという思いから、肉体の自分

をかばったり、肉体の自分を

表そう、認めてもらおうと、様々

な汚れを付けてきました。その汚れの

部分を「肉の思い」と言い、その本質の部分の意識を「エ

ルランティ」と呼んでいます。

エルランティ

意識の世界に、言葉や、お経や、祭事などの「形」は通用

しません。通じるのは「思い」だけです。仏壇やお経などの

形が、迷い苦しんでいる霊を救うのではなく、自分の本質で

ある「神」「エルランティ」に気付いていこう、心に向けてい

こうとするその思いが、ぬくもりとなって伝わるのです。苦し

んでいる霊を供養しようとする前に、ご自身が苦しんでいる

霊の一人であることに気付いてください。そして、まずは

苦しんでいる自分自身を供養していってください。供養とは、

神の子である自分に気付いていくことに他なりません。

供

養

用語

転生

私たちは、決して今の人生だけを生きているわけではありません。たくさんの過去世を引きずって生きているのです。すべての過去世が本当のことに気付かず苦しんでいるのです。過去世を供養することが、それがとりも直さず自分を供養することになります。かと言って、過去世が誰でもあるかを知る必要はありません。過去世が誰であったかよりも、どんな思いを使ってきたかが重要であり、その心は今も使い続けている心なのです。そして、来世も使っていく心なのです。言わば、過去、現在、未来が一つになって生きているのが私たちと言えるでしょう。と言うことは、今の思いを見つめてゆけば、それが過去に使った心であり、未来に使う心でもあるわけです。今の自分を供養していくことで、何十万、何百万というあなたにつながる過去の意識に、そして未来に光が射していくことになるのです。肉で見れば、ちっぽけなたった一人かもしれませんが、意識の世界ではとんでもない広がりを見せているのです。どうぞ、ご自分の心を見つめ、神から外れた心を修正していってください。

私たちは、決して今の人生だけを生きて

いるわけではありません。たくさんの過去世を引きずって生きているのです。すべての過去世が本当のことに気付かず苦しんでいるのです。過去世を供養すること

が、それがとりも直さず自分を供養することになります。かと言って、過去世が誰でも

あるかを知る必要はありません。過去世が

誰であったかよりも、どんな思いを使って

きたかが重要であり、その心は今も使い続

けている心なのです。そして、来世も使って

いく心なのです。言わば、過去、現在、未来

が一つになって生きているのが私たちと言え

るでしょう。と言うことは、今の思いを見つ

めてゆけば、それが過去に使った心であ

り、未来に使う心でもあるわけです。今

の自分を供養していくことで、何十

万、何百万というあなたにつながる

過去の意識に、そして未来に光が

射していくことになるのです。

肉で見れば、ちっぽけなたっ

た一人かもしれませんが、

意識の世界ではとんでも

ない広がりを見せてい

るのです。どうぞ、

ご自分の心を見つ

め、神から外れ

た心を修正し

ていってく

ださい。

波動

思いの世界、意識の世界こそが本当の世界で、その思いや意識は、波動として伝わります。つまり私たちは言葉にせずとも絶えず波動を発しているわけです。心の中に争いの思いを抱えていれば、争いの波動が世界にばらまかれ、暗いエネルギーとして世界を不調和する働きをします。逆に明るい思いは、明るい波動として、すべてを調和に導く働きをします。波動ということが分かれば、自分の心を見つめ、神に心を向けていくことが、いかに大事なことが分かっていただけたと思います。決して自分一人のことではないのです。



苦しみ

サタン／闇



苦痛のことではありません。神の心から外れた心の歪みが、すなわち闇であり、サタンなのです。サタンとはあなたが思っているような化けものではなく、神から外れた、肉を自分だとする思いのことなのです。神から外れた心は、本来の心から外れた心ですから、そこに寂しさや、不安や、恐怖の心をとめない、もとの神の心に戻ろうとします。その疼きが苦しみとなって現れてくるのです。人間関係の不調和、身体の不調和、事故、心の不調和……。神から外れた心は、いろんな形となって現れ、あなたに信号を送っているのです。それが人生の中で現れる様々な苦しみの正体ではないでしょうか。



意識の世界 と肉の世界

言葉であるとか、態度であるとか、行動であるとか、形に表れた世界を「肉の世界」と呼び、それに対する思いの世界を「意識の世界」と呼んでいます。思いの世界ですから、肉体のあるなしに関わらず存在するわけで、死後の世界をも含んでいると言えるでしょう。

用語

闇出し瞑想

先に取り上げた、5つの励行・3つの実践・2つの確認ということは、どちらかというところ、日々の生活の中で行っていくことです。ところが瞑想の中でも、「自分の闇を解放し確認していく瞑想」(闇出し瞑想と呼んでいます)については、セミナー会場以外で行うことは難しいと思います。

具体的には、上記の「5・3・2」を進めていると、次第に意識の世界に敏感になってきます。そうになると、セミナー会場等で、自分の闇に心を向ける瞑想をすることで、自分の中に渦巻いている闇を身体で感ずることができるようになります。その時は、自分の闇のすさまじさに、「こんなエネルギーを隠し持ち、普段使っていたのか」と驚き、反省につながっていくわけです。溜まったガスを抜くという意味で「ガス抜き」とも呼ばれていますが、大声を出したり、のたうち回ったり、クルクル旋回を始めたりと、セミナー会場以外でこんなことをしていれば、間違いなく気が狂ったと思われるでしょう。

しかし、この瞑想を体験された多くの人が、自分の闇のすごさに気付くとともに、自分の暗さに落ち込むのではなく、かえって明るく「すっきりしました」とか「自分の闇に出会えてうれしいです」とか感想を述べておられますし、事実、闇出し瞑想後に、「母を思う、神を思う瞑想」をした時など、自分の奥底から吹き出してくる、「懺悔」とか「喜び」とか、簡単に言葉にするのがもどかしいような体験と出会うこともしばしばです。

セミナーについて

ここでは次の3つについて紹介します

セミナーはどこで行っているのか？

セミナーでは何を行っているのか？

セミナーに参加するにはどうすればよいのか？

a. 参加資格があるのか？

b. 申し込み方法は？

c. 参加費用は？

セミナーはどこで行っているか

このセミナーは、当初は、研修会や学習会という形で、田池留吉先生の主催で開かれておりました。開催地も国内では、北海道、岩手、宮城、東京、神奈川、新潟、静岡、石川、岐阜、三重、滋賀、京都、和歌山、大阪、奈良、兵庫、岡山、愛媛、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄。海外ではソウル、ロサンゼルス、ニュージャージー、ニューヨークに及ぶようになりました。

そんな中、やがてエルランティの光出版が設立され、セミナーも学習会や研修会と呼ばれていたものが、エルランティの光セミナーとなって今日に及んでいます。

そして、これらセミナーでは田池先生の講話を始め、チャネリング、瞑想、反省と、様々な形で自分の心を見る機会が与えられるのです。

現在では、このセミナーも、今、紹介した総合セミナー（97年の一例を次頁に掲載）の他、有志で主催する様々な形のミニセミナーまでが全国各地で開かれるようになっていきます。

開催場所と参加費用の実際（97年度）

月	セミナー会場	所在地	日 程	内 容	費用（税込）
1	遠鉄ホテルエンパイア	静岡県浜松市舘山寺	1/12(日)～1/14(火)	2泊3日（食事共）	29,000 円
	琵琶湖グランドホテル	滋賀県大津市雄琴	1/26(日)～1/28(火)	2泊3日（食事共）	28,000 円
2	鷺羽グランドホテル	岡山県倉敷市下津井	2/11(日)～2/13(火)	2泊3日（食事共）	29,000 円
	ニューフジヤホテル	静岡県熱海市銀座町	2/23(日)～2/25(火)	2泊3日（食事共）	29,000 円
3	ホテルレークビワ	滋賀県守山市今浜町	3/9(日)～3/11(火)	2泊3日（食事共）	28,000 円
	霧島国際ホテル	鹿児島県姶良郡牧園町	3/23(日)～3/25(火)	2泊3日（食事共）	28,000 円
4	片山津ホテルながやま	石川県加賀市	4/6(日)～4/8(火)	2泊3日（食事共）	28,350 円
	遠鉄ホテルエンパイア	静岡県浜松市舘山寺	4/20(日)～4/22(火)	2泊3日（食事共）	29,400 円
5	琵琶湖グランドホテル	滋賀県大津市雄琴	5/11(日)～5/13(火)	2泊3日（食事共）	28,350 円
	熱海つるやホテル	静岡県熱海市東海岸町	5/25(日)～5/27(火)	2泊3日（食事共）	29,400 円
6	鷺羽グランドホテル	岡山県倉敷市下津井	6/8(日)～6/10(火)	2泊3日（食事共）	29,400 円
	下呂温泉 水明館	岐阜県益田郡下呂町	6/22(日)～6/24(火)	2泊3日（食事共）	32,550 円
7	旭高原少年自然の家	愛知県東加茂郡旭町	7/3(木)～7/8(火)	5泊6日（食事共）	30,450 円
	丸峰観光ホテル	福島県会津若松市	7/21(月)～7/23(水)	2泊3日（食事共）	27,300 円
8	ホテルレークビワ	滋賀県守山市今浜町	8/3(日)～8/5(火)	2泊3日（食事共）	28,350 円
	ニューフジヤホテル	静岡県熱海市銀座町	8/17(日)～8/19(火)	2泊3日（食事共）	29,400 円
9	玄海ロイヤルホテル	福岡県宗像郡玄海町	9/7(日)～9/9(火)	2泊3日（食事共）	29,400 円
	旭高原少年自然の家	愛知県東加茂郡旭町	9/20(土)～9/25(木)	5泊6日（食事共）	30,450 円
10	ホテルレークビワ	滋賀県守山市今浜町	10/12(日)～10/14(火)	2泊3日（食事共）	28,350 円
	ホテル明山荘	愛知県蒲郡市三谷町	10/26(日)～10/28(火)	2泊3日（食事共）	27,300 円
11	霧島国際ホテル	鹿児島県姶良郡牧園町	11/ 9(日)～11/11(火)	2泊3日（食事共）	28,350 円
	熱海後楽園ホテル	静岡県熱海市和田浜南町	11/24(月)～11/26(水)	2泊3日（食事共）	29,400 円
12	宝塚グランドホテル	兵庫県宝塚市栄町	12/ 7(日)～12/ 9(火)	2泊3日（食事共）	28,350 円
	下呂温泉 水明館	岐阜県益田郡下呂町	12/23(日)～12/25(火)	2泊3日（食事共）	32,550 円

セミナーでは何を行っているか？

第129回エルランティの光セミナー（下呂）日程表

日程：1997年6月22日(日)～24日(火)

主催：エルランティの光出版

会場：下呂 水明館

6月22日(日)

13:30～13:40	朗読「セミナー資料」
13:40～14:40	講話
14:40～15:00	休憩
15:00～17:00	チャネリング 瞑想
18:00～19:30	夕食
19:30～20:00	瞑想（母を思う、神を思う）
20:00～21:00	体験談
21:00～22:00	心の相談室（希望者のみ）

23日(月)

8:00～	
10:00～10:05	朗読「セミナー資料」
10:05～12:00	講話
12:00～13:30	昼休み
13:30～14:10	反省
14:10～14:30	休憩
14:30～17:00	チャネリング 瞑想
18:00～19:30	夕食
19:30～20:00	瞑想（母を思う、神を思う）
20:00～21:00	体験談
21:00～22:00	心の相談室（希望者のみ）

24日(火)

8:00～	
10:00～10:05	朗読「セミナー資料」
10:05～12:00	講話
12:00～13:20	昼食
13:20～14:25	チャネリング 瞑想
14:25～14:30	おわりのあいさつ

講話の時間

田池留吉先生が、この学びについて、ご自身の体験や実例を交えながら、心を見ることの大切さ、その進め方等、肉の生活から意識の世界への導入を、テーマを設け、その時々話題を取り入れたりしながら話してくださる時間です。

闇出し瞑想

学びの進行状況によって、瞑想の仕方も変化してきますが、今、現在は、自分の闇に心に向け、自分の闇を確認し受け入れていくという瞑想を、田池先生の指導で学んでいます。

体験談

他の人の体験談に心に向け、自らの学びの参考にしたたり、自らの体験と重ねて反省につなげたりして1時間を過ごします。

母を思い、神を思う瞑想

すべてを受け入れる「母親の思い」、本当の「神の心」に思いに向け、そのぬくもりに出会う瞑想をみんなで自主的にしています。

セミナーに参加するにはどうすればよいか？

セミナー の申込み	資格	宗教団体でも、特定の会でもありませんので、 ごなたでも自由に参加していただけます。
	申込方法	下記問い合わせ先で日程を確認の上、 郵便かFAXでお申し込みください。
	連絡先	神奈川県相模原市橋本 3-4-12 TEL 0427-71-9100 FAX 0427-71-9002
	参加費用	セミナー会場が、ホテルや旅館であるため、宿泊費用、 会場費用等の実費を頂いています。具体的には、19頁 掲載の昨年度の実例をご参照ください。

出版物について

出版物等の 問い合わせ	出版物	セミナーの内容を収録した「ビデオテープ」や 「カセットテープ」をはじめ、「エルニュース」 「エルメッセージ」等の定期刊行物を発行しています。 お申し込み、お問い合わせは下記まで。
	連絡先	神奈川県相模原市橋本 3-4-12 TEL 0427-71-9100 FAX 0427-71-9002



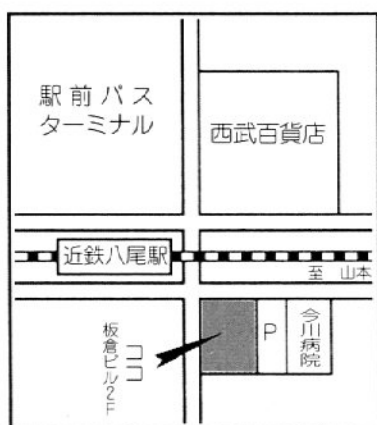
研修センター・心の相談室

<p>研修センターおよび心の相談室について</p> <p>相談室の利用及び研修センターの利用は、すべて無料になっています。また研修センターで開かれるミニセミナーも同じように無料になっています。遠慮なくご利用ください。</p>	大阪研修センター	<p>心の相談室 毎週 月曜・水曜・金曜日の10時～15時 ビデオ会 毎週、月曜 水曜 金曜日</p> <p>この他、学びについての資料・書籍 冊子類の閲覧 貸し出し（販売もあり）もおこなっています。</p> <p>問い合わせ先 大阪府八尾市東本町3-9-36 板倉ビル TEL 0729-24-6810 / FAX 0729-22-6055</p>
	和歌山心の相談室	<p>毎週 水曜 木曜日の10時～16時（祝日及びセミナー開催中は休んでおりますので、前もってお問い合わせください。）</p> <p>交通 JR「和歌山駅」または南海「和歌山市駅」からバスで「県庁前」下車、徒歩5分</p> <p>問い合わせ先 和歌山市広道20番地 第3田中ビル1F 富二設計コンサルティング（株）和歌山事務所内 TEL 0734-27-3349 / FAX 0734-36-6592</p>
	岐阜心の相談室	<p>第2第4木曜日の10時～14時（要予約）</p> <p>交通 JR「大垣駅」下車 タクシーで10分 または近鉄バス「赤坂行き」「近鉄揖斐駅行き」で、「赤坂大橋」下車、徒歩10分</p> <p>問い合わせ先 岐阜県大垣市草道島町299 平田肇宅 TEL/FAX 0584-71-4968</p>
	東京研修センター	<p>心の相談室 毎週 月曜・金曜日の10時30分～15時 ビデオ会 毎週、火曜・木曜日の10時30分～16時</p> <p>この他、学びについての資料、書籍、冊子類を自由に閲覧利用していただける他、定期的にミニセミナーを開催しています。</p> <p>問い合わせ先 神奈川県相模原市橋本3-4-12-2F TEL 0427-74-8151 / FAX 0427-71-9002</p>

海外の連絡先

ニュージャージー連絡所	<p>Tetsuo Kubo 14Vista Lane, Edgewater, New Jersey 07020 U.S.A. TEL(201)886-9520 FAX(201)886-9520</p>
ニューヨーク連絡所	<p>EL Company.Ltd Toshio Sawada 240 West 4th Street Suite 3A New York, New York 10014 U.S.A. FAX(212)645-4282</p>

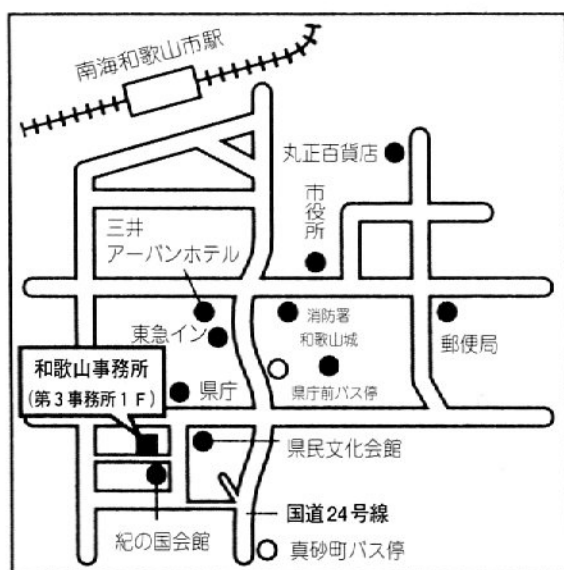
研修センター・相談室の地図



大阪研修センター

TEL 0729-24-6810

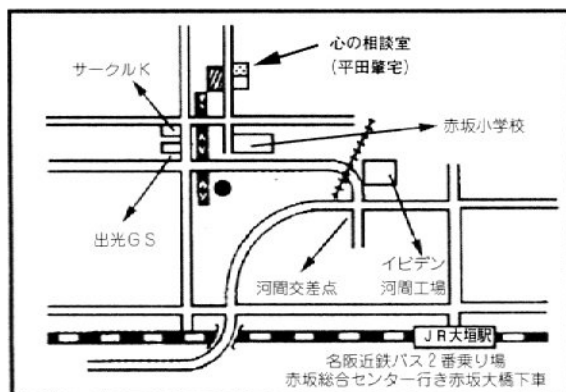
FAX 0729-22-6055



和歌山 心の相談室

TEL 0734-27-3349

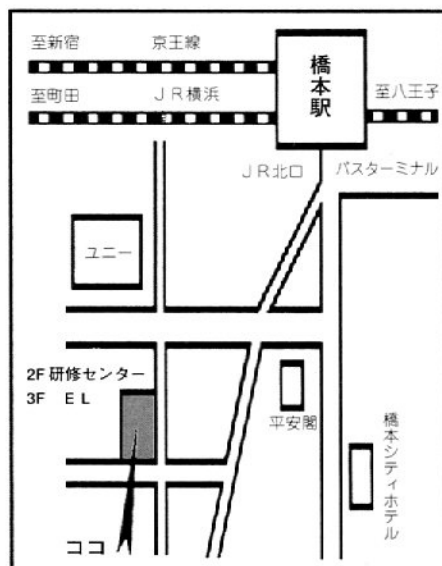
FAX 0734-36-6592



岐阜 心の相談室

TEL/FAX 0584-71-4968

心の相談室では、夫婦、親子、病気、先祖供養、職場での人間関係等、いろいろな悩みや苦しみの本当の原因を知り、その解決の道を探るお手伝いをしています。なお、利用は一切無料になっております。



東京研修センター

TEL 0427-74-8151

FAX 0427-71-9002



〒229-1103 神奈川県相模原市橋本 3-4-12
TEL 0427-71-9100 FAX 0427-71-9002



株式会社

E^{エル}L

エルランティの光出版